

2026年2月25日 [主要船籍の現状と展望](#)

《シリーズ》 主要船籍の現状と展望 安全運航とコンプライアンスを重視 マーシャル諸島船籍



マーシャル諸島船籍は安全運航とコンプライアンスを重視するというポリシーのもと、同船籍の船舶を運航する船主に寄り添った営業スタイルで船籍業務を担当する。マーシャル諸島船籍の登録業務を行うマーシャルアイランド海事局の栗原道則日本局長は、「メジャー船籍の中での選択肢の1つとしていただけよう、お客さまへ説明させていただく活動を進めていく」と語った。

— 現在の登録船舶数と総トン数は。

「2025年12月31日現在で登録船舶数は6083隻、総トン数は約2億700万トンとなっている。2025年に総トン数の増加率が最も高かったのは旅客船で、増加率は前年比31%増となった。次いでオフショア・サポート・ベッセル（OSV）が22%増となった。一般貨物は14%増だった。全体の総トン数の増加率は4%となっている」

— 2025年のマーシャル諸島船籍に関わる主要トピックは。

「マーシャル諸島船籍は毎年継続的な成長を遂げている世界有数の船籍だ。パリMOUと東京MOUでホワイトリストに登録されているだけでなく、米国沿岸警備隊（USCG）の『QUALSHIP21』を21年連続で取得した世界で唯一の船籍であり、マーシャルアイランド海事

局はこの取り組みに継続的にフォーカスしている」

「人材と専門知識への投資も、マーシャル諸島船籍の成長に貢献している。われわれにとって最も重要な資産は顧客であり、世界28カ所の事務所から24時間365日、完全なサービスを顧客に提供するよう努めている。リージョン1をアジア、リージョン2を中東から欧州、リージョン3を米国とし、3つのリージョンで8時間のワーキングアワーを組み合わせることで24時間対応している。日本は東京と今治に事務所を設けており、登録4人、テクニカル1人と私の計6人で業務を行っている」

ー マーシャル諸島船籍の船籍としての強みは。

「年間費用以外の追加料金がかからず、クレジットカード決済が可能であることや、クルーズとガス、オフショア産業に関する専門チームを含む強力な技術サポートができることなどを強みとしている。また、ポート・ステート・コントロール（PSC）拘留の可能性が低いため、予期せぬ収益損失のリスクを最小限にできることや、特に米国や欧州、豪州の港でのPSCで高い評価を得ていることなども強みだ」

「便宜置籍国が課税逃れの抜け穴として利用されることが2000年代後半から国際的に問題視されるようになり、『BEPS（Base Erosion and Profit shifting、多国籍企業が利益を低税率国に移転し課税所得を減らす行為）』による課税逃れを防ぎ、国際課税ルールを企業活動の実態に即したものにし、税負担の公平性を確保する対策が経済協力開発機構（OECD）や欧州連合EU（EU-ESR：Economic Substance Regulation））で実施されるようになる中、マーシャル諸島船籍はこの取り組みに協調し、マーシャル諸島法人に対して経済的実体の存在とその届け出義務を課すスキーム（ESR）を2018年から設けている」

「国際海事機関（IMO）と国際労働機関（ILO）への関与を含め、国際的なルール作りに積極的に参加している。また、登録申請などにかかわるポータルサービスも現在開発中となっている」

「なお、マーシャル諸島船籍を掲げる船舶は、米国との自由連合盟約（Compact of Free Association = COFA）に基づき、国連に加盟している独立国だが米国の裁量による保護を受けることになる」

ー 2026年はどのような活動を進めていくか。

「マーシャル諸島船籍をお使いいただいているお客さまに、できるだけ密着した形で、引き続きお使いいただけるようケアをしていくとともに、マーシャル諸島船籍を使ってほしいというよりは、マーシャルの特長を時事状況と組み合わせながらご説明していきながら、他のメジャーな旗国さんに対する選択肢として検討していただく機会を頂戴できるよう活動していければと考えている」

「安全運航やコンプライアンスの強化に向けた取り組みは、マーシャル諸島船籍が発起当初から続けている活動ベースの1つとなっている。そのため、時には厳しいお願いをせざるをえないようなケースが出てくるかもしれないが、そうした場合には安全とコンプライアンスを守るために必要な措置との確証を通じて、お客さまにご理解をいただけるよう、説明を尽くしてい

きたい」

(連載おわり。功刀竜介が担当しました)

関連記事

- ＞ [《シリーズ》主要船籍の現状と展望、パナマ船籍、ダークフリートの増加に対処](#)
- ＞ [《シリーズ》主要船籍の現状と展望、バハマ船籍、高付加価値船に豊富な実績](#)
- ＞ [《シリーズ》主要船籍の現状と展望、リベリア船籍、総トン数で船腹量1位維持](#)

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.